

## 叔父の召集

御田町 濱 博人



百歳になるおふくろが、ふとこんなことを言った。  
「昨夜、兄さん（私の叔父）と手をつないで歩いた夢を見た。本当になつかしかった」と目をうるませていた。

私が小学生から中学生のころだった。戦火が激しくなった中、東京で警察官をしていた叔父に、召集令状が来た。

諏訪へそのことを報告に来た時のことだった。祖母が叔父の手をしっかりと握り、「なあお前生きて帰って来てよ。親から預かった命を大切にしてくれよ」

とろりを囲み、薄汚れた手拭いで目頭を時々押さえながら、ぼつぼつとかみしめるように語っていた。

それからまもなく、広島にあのいまわしい原子爆弾が投下され、二十数万人も犠牲者が出て終戦になった。

まもなく、叔父の戦死広報が入った。南方の島だったと言う。そんな中、近所の人、知人等が復員し始めた。おふくろたちは戦死が信じられず、復員してきた人たちから、叔父の消息を聞き始めた。

船の中では一緒だったと言う人も、また戦地で一緒だったという人もいたりしたが、結局何

も確認できずに悲しい日々を過ごしていた。

結局、遺骨のないままの葬儀だった。

そんな頃は食糧事情も悪く、私たちはひもじい思いをしていた。当時米は配給制で、思うように手に入らず、日曜日になるとおやじさんや兄弟たちと、諏訪市の田んぼへ稲穂拾いに行ったり、近くの土手で摘み草をしたりした。多数の人が摘み草に行ったりしていたので、土手に草がなくなったこともあった。時には山梨方面へ、芋の買い出しに行ったりして腹を満たしていたものだった。

あれからすでに六十数年が経った。特定の人間の無知と野望と無謀さが起こした戦争。人と人との殺し合いの悲惨さの中に、何人もの人々が恋人を、夫を、子どもを、父を亡くした。

## 尊い犠牲の上に

新町上 藤森 恒子



八月になると原爆忌、終戦記念日に思いを馳せます。人の力では贖うことのできない自然の膨大な被害（東日本大震災他）は、決して忘れることのない悲しい出来事でした。それにもまして、日本の国が起こし、国中が体験し、戦争史上類のない広島島の悲劇のあった第二次世界大戦は、今なお私の心の中に大きく残っています。

そのころ、私は小学校の低学年でした。戦中戦後はあらゆる物資が不足し非常な食糧難で、今まで食べられないと思われていた雑草まで競って摘み、わずかな米の中に入れて食べました。米は勿論のこと、芋、南瓜まで割り当てで、しかも南瓜は切り



分けるのです。近所で私を可愛がってくれた優しいおばあさんが、取り分が他の人よりも小さいと怒っていました。周りの人たちが困っていたのが忘れられません。

また近くに、東京の人が家族で疎開していました。塀があつたので姿はそんなに見えませんでした。江戸っ子らしい陽気な話し声が朝晩聞こえました。

ある時、その人たちの声がばつたり途絶えました。あとで聞いた話では、東京の家に衣類等取りに行き、三月の東京大空襲で家族もろともに焼夷爆弾で亡くなったとのこと。また、近くの家で二歳の男の子が亡くなったと泣き叫ぶ家族の声がしました。坊やお腹がすき、薬の「わかもと」の錠剤を瓶がからにな

るほど、口の中に入れ窒息死してしまつたのです。

その話をしている大人たちの中に、「あの家も子どもが大勢だ、この時期一人くらい死んでも」と言っている人がいて、追いつめられると人格が変わるといふことを、子どもながらに感じました。亡くなった男の子のお父さんは確か出征兵士で、親戚らしい人が「生まれたのも死んだのも、兵隊に行つて知らないよね」と痛ましげに話していました。

また町角に立ち、出征兵士の武運を祈る千人針を頼む女の人たちがいました。私も、覚束ない手つきで針を運びましたが、その人たちも明るい顔はしていませんでした。戦死者を迎えるため、小学生も駅通りに並びお迎えしました。英霊を抱えて通られる遺族の方たちは、悲しみに堪えている様子で、「名譽の戦死」などと思つてはいなかつたのではないのでしょうか。

食料不足の中、両親が汽車で

この取り返しをつかない戦争は、絶対に繰り返してはならない。今、国民の大半が先の戦争を知らないと言う。戦後の記憶が風化されつつあることを、心から心配しているこの頃である。

戦争の記憶が遠ざかるとき、戦争がまた私たちに近づく。そうでなければ良い

石垣りんの詩「弔詞」の一節が心に残った。



町外の農家まで買い出しに行つた日の夜、空襲警報で灯火管制の暗闇の中、弟妹五人抱き合つて母を待つていた時の、空腹と恐怖心は今でも甦つて来ます。あの時私は小学校三年生、末の弟は二歳になっていませんでした。爆弾にするとこのことで、台所の鍋釜しゃもじまで、競つて供出したのもこのころです。情報も経済も統制された国の政策であった戦中、アメリカで核兵器が開発されていることなど夢にも思わず、国のため皆真剣でした。

このところ、憲法改正とか国防軍が必要など、不穏な空気を感じます。他の国との摩擦等ありますが、戦争は互いに無惨な限りない不幸をもたらします。今の平和で豊かな生活は、先の大戦での尊い犠牲の上にあることを、忘れてはいけなさと深く念じています。

